

令和3年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和3年8月6日(金) 14時00分～15時50分
- 開催場所 平塚市美術館 アトリエA
- 出席者 委員 吉村維元、靱山昌夫、丹野栄一、林孝之、土屋浩明、鈴木憲子、難波修三、保坂米蔵（敬称略）
- 事務局 吉野教育長、平井社会教育部長、草薙特別館長、戸塚館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員、桑名学芸員、高倉管理担当長

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 平塚市美術館協議会について
- 7 「開館30周年記念 The Gift 寄贈をうけた作品選+新収蔵品展」、「開館30周年記念 studio COOCA のパッパラパラダイス2021 これがとってもとくいです」観覧
- 8 議題
 - (1) 正・副会長の選出について
 - (2) 令和3年度事業について
 - ① これまでの事業報告（事務局から説明）
○作品 ○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業 ○施設利用者等の統計
 - ② 今後の事業予定（事務局から説明）
○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業
 - (3) その他
- 9 閉会

■委嘱状の交付

教育長から委嘱状の交付を行った。

■教育長あいさつ

委員会開催にあたり、吉野教育長から挨拶があった。

■議題及び質疑

(1) 正副会長の選出について

会長に吉村維元委員、副会長に靱山昌夫委員を全員一致で承認し、選出した。

(2) 令和3年度事業について

① これまでの事業報告

◆令和3年7月までの展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

◆その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理等の内容を事務局から説明。

② 令和3年度の今後の事業予定について

◆下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

◆その他の事業の内容等を事務局から説明。

(質疑)

委員 教育普及プログラムについて、前庭でこういう社会状況の中開催されていて非常に素晴らしいと思う。天候に左右されることもあるかと思うが、今後も積極的に開催されるよう期待する。また、現在開催中の企画展「スタジオクーカのパッパラパラダイス」は大変明るい雰囲気タイトルのだが、これはどなたが考えたのか。

事務局 スタジオクーカさんと協議して決めたのだが、前にもこのタイトルで実施したことがあり、これに決定した。

委員 スタジオクーカさんの作品の中に段ボールで額装しているものがあり、SDGsの状況下、大変面白いと感じた。また、商品デザインのパッケージにまで社会的な所にまで擦り付けをしたものがあるが、この展覧会で商品の展示はあるか。

事務局 美術作品ということではないが、スタジオクーカさんの活動を紹介するということで、一角に商品を紹介するコーナーを設けてある。

委員 美術館ということで、展示制限があるかもしれないが、団体が持っている社会的なものも見せてほしいと思う。

委員 施設利用者等の統計の中で今年度の4月から7月の観覧者数が令和元年と比べてコロナ禍の状況にあっても遜色のないものになっているが、なぜか。

事務局 コロナのために、いろいろな美術館が展覧会を中止にしているが、コロナ禍であっても対策を講じれば大丈夫と判断し、展覧会を開催した。他所が休館しているためか、多すぎない程度に来館者があったもの。

委員 それは、来館者数から察するに（コロナ禍において）存在意義というか開催する意義はあったということか。

事務局 そう考えている。

委員 以前から、この美術館の展覧会を見させていただいているが、単純に比較はできないが、コロナ禍にあっても以前と遜色のない展覧会を開催されており、非常に興味深いとともに頑張っていると感じている。

委員 今年度の市民アートギャラリーの貸し出し状況について、一昨年と比べて少ない状況であるが、これは意図的に減らしているのか。

事務局 利用申し込みをしたが、コロナ禍を考慮しキャンセルした団体もあり、一昨年と比べると少ない状況となっている。

委員 パッパラパラダイスについて、事前に観覧したのだが、展覧会はもちろん作品からはエネルギーも感じられて非常に素晴らしい。率直にまた来たいと思った。また、同時に開催されている「The Gift」も大変素晴らしく、大変見応えのあるものになっている。是非、あらためて感動に浸りたいと感じたのだが、2つの展示室で同時に展覧会を開催することが多いと思うが、例えば2つの展示室を合体させて会期を短くして一つ目を開催し、終了後にもう一つを開催するという方法もあると思うが、どうか。

事務局 以前は一つしか開催していなかったのだが、その頃には、あまり来館者数が伸びなかった。2つ同時に開催すると相乗効果で入場者数が増える。こういった努力をして観覧者数を増やしてきた。この経過を御理解いただきたい。なお、一つの展覧会を見に来た方が、その入場券で隣の展覧会も見られるという特典がある形となっている。

(3) その他

平塚市美術館の新型コロナウイルス感染症拡大予防対策について事務局から説明

(質疑)

委員 「The Gift」を拝見して、いろいろな方々から寄付をいただいていることを知った。感謝の意味を込めてプレートを館内に貼ってもいいのではないか。

この美術館を建てた趣旨とこれまでの活動を記すようにして、この美術館はこういう趣旨で建てたのだから、これが達成できると今回の企画展は成功だと言えるような指標を立てたらどうか。今回、展覧会を見せていただき、美術館がこんなに頑張っているということを今まで知らなかった。

駐車場の料金について、美術館はほかの施設と違って絵の愛好家がゆっくりと見たい施設なので駐車料金を無料にしてはどうか。

飾ってある絵にキャプションが付いているが、もっと大きい字にしてもらえると見やすい。また、作者の経歴や、どういう傾向の絵であり、こういう視点で見ると良いといったことを音声で案内するようなサービスを取り入れてはどうか。

展覧会の評価について、入館料や入館者の数といったものを反響として捉え、何によって評価するのかということを考えたらどうか。

今回の資料の中にお金に関するものが一切出ていないのだが、それは関係のないこととしてよいのかと感じた。

市の広報に毎号「美術館だより」の欄を作って、展覧会があろうがなかろうが、学芸員の素晴らしい視点を掲載することにより、市民の美術に関する関心を高めてはどうか。

事務局 寄贈プレートに関しては、欧米の美術館で実施しているところもあるようだが、たくさん寄贈がある中で寄贈された方の考え方（名前を出してもいいとか）もあるので、当館ではキャプションの中で記載できるものは記載するようにしている。

評価の指標について、当館は「湘南の美術・光」をテーマとして湘南で活躍してきた作家の展覧会を開催してきた。教育委員会の計画の中では来館者10万人を目指すという指標をたてており、このような状況下ではあるが、なるべく多くの方々に御覧いただき、指標を達成できるよう努めている。

2003年頃、当館の入場者数は3万人前後だった。それを10万人が入場するまでに努力してきた。上野の美術館やデパートなどで開催される展覧会とは違って、当館のような小さな規模の施設で10万人を集められるというのはかなり健闘しており、褒めていただいてもよいのではないかと考えている。

駐車料金に関しては、中央図書館、博物館そして市役所と同様の料金体系であり、1時間までは無料となっている。ゆっくりと作品を見たい方については、駐車料金の御負担に御理解を賜りたい。

美術館の収支に関しての情報について、本市は毎年「公共施設白書」をウェブで公開しており、この中で美術館の収支についても紹介している。次回の協議会で、この資料をお示ししたい。

キャプションの文字について、直せるものは直していきたいと思う。

広報の「美術館だより」の欄については、まず、紙面の都合や庁内各課の掲載の都合などもあり、毎号掲載できるという状況ではないことを御理解いただきたい。現在、美術館だよりというコーナーを設けて発信をしているが、これを繰り返していくことと美術館のウェブやツイッターを活用して様々な情報を発信していきたい。

音声によるガイドについては、スマホのアプリの活用など、今後検討していきたいと考えている。

※このほか、委員から施設利用の申し込み手続きに関する御意見をいただいた。

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

次回は令和4年3月に開催予定。

以 上